

平成21年度 宮崎の「頑張る中小企業」表彰 新技術・新製品・新サービス部門

宮崎高砂工業株式会社

会社概要

設立	昭和45年10月
代表者	代表取締役 仙臺 洋
従業員	32名
業種	瓦・レンガ製造販売 施工
所在地	都城市山之口町山之口3388-1
TEL/FAX	0986-57-2172／0986-57-2174
URL	http://home.miyazaki-cci.or.jp/takasago/



代表取締役
仙臺 洋 氏

表彰理由

地域の産業廃棄物に含まれる汚泥等の未利用資源を活用した「国産環境型レンガ」を開発。使われるニーズに応じ、高強度で保水性、透水性などの機能を調整できる優れた製造法も確立している。このレンガの開発は、汚泥等の処分費用の削減のみならず、環境負荷軽減にも大きく貢献している。

会社紹介

■高い機能性と環境性を有した製品の開発

地域資源である粘土を利用し、瓦の製造・販売を行っていたが、瓦の需要が低迷する中、平成8年、同じ窯業分野のレンガ製造に参入した。

大手企業との違いを出すため、地域の産業廃棄物に含まれる未利用資源を活用し、「国産環境型レンガ」を開発。資源のリサイクルが可能となったことで、環境負荷が軽減された。

この製品は、1000度以上で焼成されることで、高い耐久性を持つだけでなく、半永久的に色落ちがしないため、維持費を抑制することができる。

また、製造過程においてレンガの透水性、保水性を調整できるなど高い機能を有しており、駅、学校、公園などの公共施設だけでなく、ショッピングモール等の商業施設や、個人住宅など幅広く利用されている。

■顧客本位の社員教育

製造と施工の担当者によるミーティングを毎週行い、双方の情報を共有することで、顧客のニーズに応じた製品づくりを常に目指している。また、感謝する気持ちを大切に、全社的にマナーの向上にも努めている。



多彩な独自製品



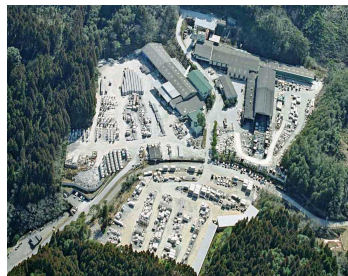
焼成前の製品

平成21年度 宮崎の「頑張る中小企業」表彰 新技術・新製品・新サービス部門

和光コンクリート工業株式会社

会社概要

設立 昭和38年6月
代表者 代表取締役 金丸 和生
従業員 61名
業種 コンクリート製品の設計、
製造販売業
所在地 日向市向江町2-125
TEL/FAX 0982-69-2216／0982-69-2254
U R L <http://www.wakocon.co.jp/>



代表取締役
金丸 和生 氏

表彰理由

創業以来、一貫してオリジナル製品の開発を重視し、既製品にない新しい発想の商品を開発している。また、早くから、間伐材を利用したガードレールや、緑化可能なコンクリートを利用した護岸用ブロックなど、環境保護やリサイクルを念頭においた製品開発に取り組む等、高い先見性を有している。

会社紹介

■オリジナル製品へのこだわり

木製防護柵「ウッドGr」は、木製の車両用防護柵（ガードレール）として、国内で初めて公的試験に合格した。

現在は、県道などで使用されており、間伐材の有効活用につながっている。

また、ポーラスコンクリートを成型し、多孔型の球状にした護岸用ブロック「ポラカブル」は、空隙を多く含んでいることから植生が可能となっているため、護岸だけでなく、緑化や河川の水質浄化などの多様な機能を有しており、海外へも製造技術及び関連製造設備を輸出している。



ウッドGrとGr・L型擁壁



ポラカブル設置により緑化された護岸

■優れた先見性と開発姿勢

早くから、環境保護やリサイクルに根ざした製品開発に取り組んでおり、高い先見性を有している。

ウッドGrやGr・L型擁壁の強度を確認するために、自ら20tトラックによる衝突実験を繰り返し行い、その安全性を証明するなど、製品の開発にあたっての真摯な姿勢は高く評価されている。

現在も、大学等と共同研究を実施するなど、オリジナル製品を重視する姿勢は一貫している。

平成21年度 宮崎の「頑張る中小企業」表彰 地域資源活用部門

みやざきバイオマスリサイクル株式会社

会社概要

設立	平成15年5月
代表者	代表取締役社長 馬場 敬之
従業員	37名
業種	電気業
所在地	川南町大字川南4621-1
TEL/FAX	0983-27-6810／0983-27-6204



代表取締役社長
馬場 敬之 氏

表彰理由

国内では初めて、養鶏農家で発生した鶏糞を直接焼却し、発生した熱の全量で発電し売電するとともに、焼却灰を肥料の原料とするなど、バイオマスの有効活用を図っている。宮崎ならではの資源を活用しているだけでなく、養鶏農家の鶏糞処理の負担を軽減している。また、雇用の創出にも貢献している。

会社紹介

■国内初の大規模鶏糞発電施設

県内の鶏糞農家から排出される鶏糞を直接焼却し、その熱の全量を電気に変換し売電している。

1日400トン、年間で13.2万トンの鶏糞を焼却しており、焼却灰は高い濃度のリン・カリウムを含む肥料原料として販売。

発電出力は11,350kwを有し、年間で約17,000戸分に相当する電気を生み出している。

■地域資源の活用による、地域への貢献

これまで、養鶏農家から排出される鶏糞は、発酵堆肥として還元されていたが、供給過多になる傾向があり、野積み等の不適切処理による悪臭や土壌・地下水汚染等が問題となっていた。

そのような中、平成11年に家畜排泄物の管理の適正化を義務づける法律が施行され、県内の養鶏農家、ブロイラー会社、電力関連会社が共同出資をし、鶏糞発電事業を開始した。

この事業により、養鶏農家の鶏糞処理の負担が大幅に軽減されるとともに、これまで処理困難であった鶏糞が、地域のバイオマス資源として有効活用されることとなり、その結果、県内養鶏産業の安定化と環境負荷軽減が図られている。

また、小中学校を始め、地域の環境教育にも熱心取り組んでいる。



鶏糞発電施設



管理・制御室